

分権観共有する行政の実現



川村直子撮影

1971年生まれ。三和総研
研究員を経て2000年衆院選
で初当選。09年10月から現
職。党副幹事長も務める。
静岡5区。当選4回。

細野 豪志さん

民主党組織委員長兼企業団
体委員長

民主党は1996年の旗揚げ以来、国会のいくつかの政党が合併する中でできてきた政党です。中央の事情が優先され、地方の基盤はもとも弱い。地方議会では少数会派にとどまるところが多く、中央と地方の間にねじれが生じています。

これまで民主党に入っていただいた地方議員は、党の理念に共鳴するとか、政治を変えたいと願うとか、純粹な方が多かった。与党になったのもう少し幅を広げ、色んな地方議員仲間に入ってもらえるよう努力をしなければ、と願っています。

党組織委員長として取り組んでいるのは都道府県連の強化。民主党は衆院議員の小選挙区ごとに設けた総支部を中心に活動してきました。力のある総支部長のところは地方議員が増えたり、そうでないところでは広がっていませんでした。そこで県連主導で地方の勢力を伸ばしていくことにしました。きっかけは昨年の陳情の取りまとめです。

陳情を総支部で受けると、新人議員の総支部とベテラン議員の総支部とで対応に差が生じる

恐れがありました。それを避けるため、県連で陳情をまとめ、優先順位を決めて党本部にあげました。副次的な効果として県連の強化が相当、進みました。

実はこれは参院選対策にもなります。選挙区は県単位ですから。選挙には目に見える票と見えない票がありますが、少なくとも組織・団体や党员・サポーターといった見える票については、県連の大会にあわせて丁寧に地方に足を運び、相当底上げをした自負があります。

民主党が掲げる地域主権の前提は、それぞれの地域で我々の考えに沿う行政がおこなわれることです。分権はしたものの、民主党の理念と逆方向の政策が進むのは困ります。地域の個性はあっていいのですが、大きな方向性は民主党と共有する地方議員を増やしたい。

そのためには選挙に勝つことです。都道府県議会では第一会派を目ざし、精神的候補者を擁立していきます。一方、市町村議会では過度に党派にこだわらざるもありません。保守系の議員さんには自民党が好きだ

からというより、要望を聞くのに便利なので自民党籍をもっていったという人が少なくない。新たに民主党の議員を立てなくても、なんとなく民主党に来てもらえばいいと思っています。

二大政党は国会では定着したと思いますが、国民全体にはまだ浸透していません。民主党の党员になってもうハードルはかなり高い。現状は議員や候補者の後援会の中核が党员になっていて、政党組織と後援会の区別が明確ではありません。これはあまり健全ではない。後援会以外の人も加わり、党は党で自立するべきです。それがこれらの課題です。

政権交代で社会のベースが百八十度転換したわけではありません。地域で支持を広げる方法は大きくは変わっていません。各議員が地に足をつけて努力すべきなのは自民も民主も同じ。

民主党が政治文化を変えたとすれば、その一つは駅前前の街頭演説でしょう。大学生や高校生を含め、駅を利用する無党派層に直接訴える。私も地元で10年以上、続けていますが、中学生だった子が高校生、大学生になり、政治に関心をもち、投票に行くようになります。ひよっとしたら民主党に入れてくれるかもしれない。親や祖父母に民主党を勧めているかもしれない。

自民党は町内会会長や長老など上から固める選挙をしてきました。そうしたやり方も否定しませんが、民主党は別の層にも働きかける二段作戦をとり、自民党を倒したのです。

(聞き手・吉田貴文)